

秋田の土地改良

3

2013・MAR



「本海獅子舞番楽 下直根講中」秋田県中仙間ふるさと・水と土フォーラムより (H25.2.23)

被災地の一日も早い復興を、お祈り申し上げます。



がんばれ東北! がんばろうニッポン!!

目次

水土里ネット秋田第55回通常総会が開催される…………… 2
 平成25年度農業農村整備事業関連予算の概要…………… 4
 モミガラ補助暗渠実施状況・効果について…………… 6
 秋田県土地改良区統合整備検討委員会が開催される…………… 7
 土地改良区の会計システム(水土里ネット秋田版)について… 8
 新設「馬場目川水系土地改良区」が誕生!…………… 9
 全国土地改良功労者表彰(全国水土里ネット総会)…………… 10
 大仙市協和小種土地改良区が農林水産大臣賞を受賞!…………… 10
 秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会…………… 11

特集：農業水利施設内の「ゴミ」問題(シリーズ⑫)…………… 12
 農業基盤整備資金について(お知らせ)…………… 13
 水土里情報システムの新たな活用!…………… 14
 会員だより、連合会日誌…………… 14
 中山間ふるさと・水と土フォーラム～伝えよう!秋田と農村の魅力～… 15
 ふるさと水と土指導員からの報告…………… 16
 特集：地域からの情報発信(水土里レポーター・矢野二郎) …… 17
 2012「ふるさと水と土」子ども絵画展…………… 18
 インフォメーション…………… 18



●発行所 秋田県土地改良事業団体連合会 〒010-0967 秋田市高陽幸町3番37号
 TEL 018-888-2750(代) FAX 018-888-2834
<http://homepage2.nifty.com/akidoren/>



第55回通常総会

● 平成25年度事業計画などを承認 ●



3月15日(金)、本会第55回通常総会が秋田市文化会館において、会員112名(内委任状52名)が出席、来賓として佐竹敬久秋田県知事、鳩山正仁東北農政局次長、小松隆明秋田県議会副議長、藤井英雄秋田県農林水産部長ほか、関係者多数のご臨席をえて開催された。

総会は、高貝会長が「国、県の施策に対応しながら、各種事業の円滑な推進に尽力することはもとより、食料自給力向上に資する農地整備の推進に対する支援や、会員の事務合理化への支援など、新たなニーズに沿えるよう、更なる技術力の向上を図りながら、豊かで活力ある農村の創造に向け、役職員一丸となって邁進して行く」などと挨拶、功労者表彰として、優良団体6団体及び個人13名の表彰が行われ、続いて来賓の方々が祝辞を述べられた。

議事では、始めに渡邊聡之おものがわ土地改良区理事長を議長に選任し、引き続き、平成23年度事業報告及び一般会計収支決算、平成24年度一般会計収支補正予算(理事会専決処分)、平成25年度事業計画及び一般会計収支予算、役員報酬などが審議され、提出議案は全て原案どおり議決された。

事業計画では、従来からの事業展開に加え、食料自給力向上に資する農地整備の推進に対する支援、会員の事務合理化への支援、水土里情報利活用への支援、農業水利施設アセットマネジメントの推進、小水力発電等の再生可能エネルギーの普及並びに防災・減災対策への支援に重点を置き、積極的に活動を展開して行くことが掲げられた。

さらに、任期満了に伴う役員選任も議決され、理事13名、監事3名(別掲)が選任された。最後に、黒子専務理事により、決議文(別掲)の朗読があり、満場の承認を得て採択され、総会は終了した。

なお、今回表彰された土地改良功労表彰(優良団体、個人)の受賞者は次のとおり。



団体表彰

- ◇金章 井川町土地改良区、にかほ市土地改良区
- ◇銀章 能代市東土地改良区、大潟土地改良区
由利本荘市鮎川土地改良区
- ◇銅章 雄和土地改良区

個人表彰

加賀谷久、武内浩、佐藤順子、伊藤繁美、浅野明美、小川久、佐々木昭彦、判田勝補、山崎淳子、佐藤忠太郎、高橋弘志、矢野二郎、加藤満(敬称略)



新役員名簿

区分	氏名	所属団体名・職名	区分	氏名	所属団体名・職名
理事	田口 信一	かづの土地改良区理事長	理事	小畑 元	大館市長
	畠山 清俊	比内町土地改良区理事長		長谷部 誠	由利本荘市長
	田中 長	琴丘土地改良区理事長		松田 知己	美郷町長
	佐藤 國夫	秋田市旭川筋土地改良区理事長	員外理事	清野 弘久	学識経験者
	正木 正一	大内土地改良区理事長		水戸 憲光	学識経験者
	高貝 久遠	秋田県田沢疏水土地改良区理事長	監事	小川 善信	能代南土地改良区理事長
	柴田康二郎	秋田県雄物川筋土地改良区理事長		鈴木 清	男鹿東部土地改良区理事長
	大坂 芳市	雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区理事長		藤井 弘道	秋田県南旭川水系土地改良区理事長

決 議

我々の先人は、農地や水路などの維持とその機能向上に、優れた英知を集め、献身的な努力を積み重ねるなど、国の大本である農業・農村の健全な発展に役割を果たすことにより、豊かな国土や良好な自然環境を育んできた。

しかし、昨今の農業・農村は、過疎化、高齢化並びに担い手不足を起因とする地域活力の低下などの課題が山積するとともに、農業水利施設の老朽化と相まって、食料自給力の向上に支障を来している。

加えて、平成22年度の大規模な削減以来続いた農業農業整備予算の低迷は、我が国農業・農村の持続的発展に大きな不安を抱えるものとなり、さらに、TPP交渉の如何によっては、日本の食と農業・農村に甚大な影響を与えることとなる。

こうした中で、昨年末の政権交代を受け、来年度の農業農村整備予算は、今年度の大型補正予算と合わせた「15ヵ月予算」として、削減以前の水準に復活計上されるとともに、これら公共事業執行に伴う地方負担の軽減を目的とする元金臨時交付金の特例が措置されている。

今こそ、集落営農を含む担い手への農地の集積を推進し、経営規模の拡大を大きく加速させることによって、新たな地域営農を切り開いていく必要がある。また、再生可能エネルギーへの国民の関心が高まり、農村の土地・水資源を活用した小水力発電などへの期待にも応える必要がある。

現下の農業・農村の現状と課題を踏まえ、これら関係予算の早期成立と、下記の政策事項の実現を強く要請することを本総会において決議する。

記

- 一、TPP交渉により、日本の食の安全・安心を担い、多面的機能を発揮している農業・農村とこれを支える農家の生産意欲に悪影響を及ぼすようなことは、国として断固行わないこと。
- 一、国民の命を守り、我が国の食と農林漁業を再生するため、老朽化した農業水利施設の保全整備や耐震化の推進等、防災・減災に万全の対策を講ずること。
- 一、食料自給力の向上と担い手への農地集積の加速化を実現し、生産効率を高め、競争力をもった攻めの農業を展開するため、水田の大区画化、汎用化をはじめとした各種の対策を推進すること。
- 一、地域や土地改良施設に係る知見を有する土地改良区の役割を評価し、運営基盤の強化と管理体制の機能充実に支援すること。
- 一、これらの政策推進に不可欠な農業・農村の整備を、国の重要施策として十分な予算を確保するとともに、所要の地方財政措置を継続して講ずること。

平成25年3月15日

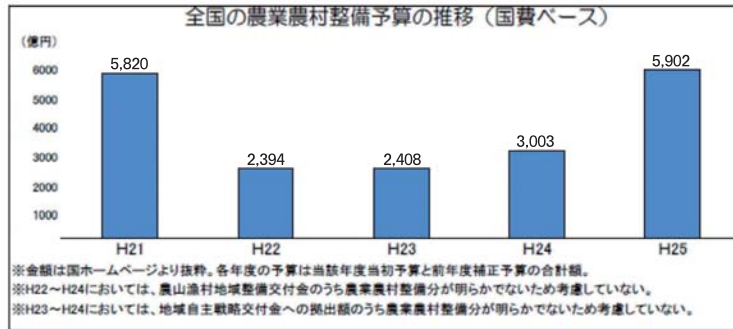
秋田県土地改良事業団体連合会 第55回通常総会

(水土里ネット秋田)

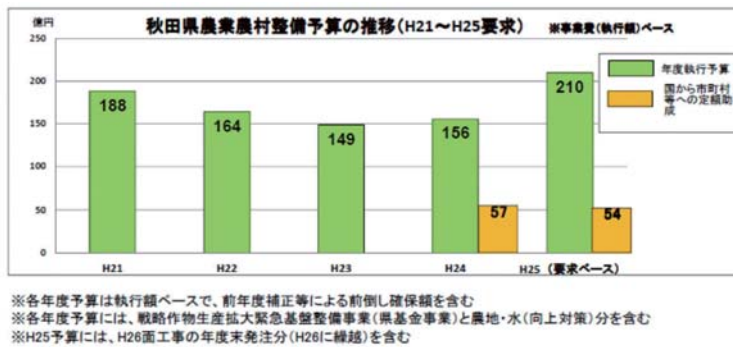
平成25年度農業農村整備事業等予算の概要について

(秋田県農林水産部)

○国のH25農業農村整備事業予算は、農山漁村地域整備交付金とH24補正予算(第1号)を加えると、大幅縮減前のH21当初を上回る予算が計上。



○県のH25執行額は、H24補正とH25当初を合わせ210億円を確保(対前年比140%)。



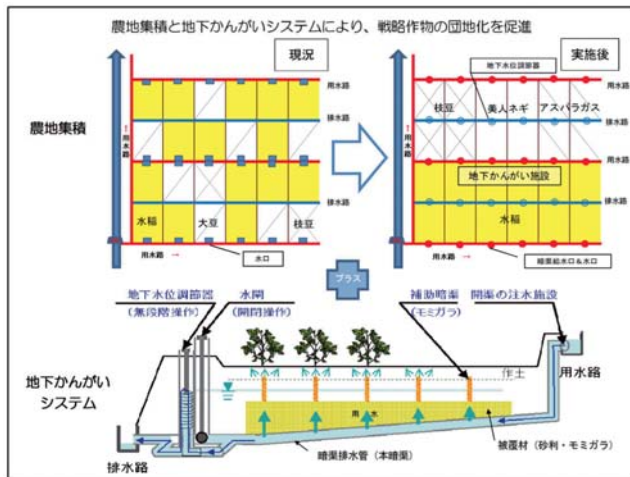
平成25年度からの県が新たに取り組む事業について

①戦略作物団地化促進万能水田実証事業(H25当初:新規)

戦略作物の生産拡大と団地化の促進を図るため、水系単位の区域において、地下かんがいシステム等を導入した基盤整備の実証事業を実施。

- ・対象地区：1地区(大区画以前にはほ場整備された20～30ha程度の団地)
- ・補助率：国費55%，県費45%

【整備イメージ】



【実証内容】

- 区画整理(面整備)なしで農地集積や戦略作物団地化実証
 - ・作付誘導、ブロックローテーション、農作業効率、営農経費等
- 水管理の合理化・省力化の検証
 - ・水管理コスト低減、節水等
- 大規模地下かんがいシステムの実証
 - ・作物毎の最適地下水位、水温、地耐力、収量及び品質等

効果・検証を踏まえ

今後、大区画ほ場整備以前のほ場を対象に普及拡大を目指す。

②農業水利施設保全合理化事業(H24補正:新規)

老朽施設の補修・更新、既存の水路のパイプライン化等、保全・合理化整備を緊急実施。

(1)管理省力化施設整備事業(事業費200万円以上)

水管理施設、維持管理施設、安全施設等の農業水利施設における附帯施設の整備。

- ・実施地区等：鹿角市ほか15市町村 ・事業費：21億円
- ・補助率：国55%(6法指定地域外50%)、市町村45%

(2)機能保全計画策定事業(受益面積10ha以上の農業用排水施設等)

農業水利施設の機能保全診断を実施し、施設を補修するために必要な計画を策定。

- ・実施地区等：5地区 ・事業費：44百万円 ・補助率：国100%〔定額〕

対象工種の例(写真はイメージ)

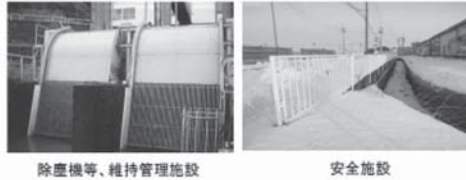
○緊急的な機能診断



○管理省力化のための施設整備



○老朽化した水路の補修・更新、パイプライン化等



③震災対策農業水利施設整備事業(H24補正:拡充)

施設の安全性や地域の安全度の向上を図るため、ため池の現況把握(一斉点検)及び耐震性調査を実施し、緊急的な減災対策を推進。

(1)農業用ため池の現況把握(一斉点検)

施設の諸元、漏水、クラック及び変形、改修履歴、周辺状況の点検等

- ・実施箇所等：かんがい受益面積2ha以上のため池1,900箇所〔全額国費〕

(2)耐震性点検調査

ボーリング等による土質調査、及び安定計算による耐震性の検討

- ・実施箇所等：受益面積2ha以上かつ被害想定面積7ha以上、または被害総定額4千万以上のため池105箇所〔全額国費〕

事業内容

施設の現況把握(一斉点検)〔定額〕

施設諸元、漏水、クラック及び変形、変状、改修履歴、周辺状況等の点検

- 被災時に周辺地域の施設(人家、公共施設)等に影響が大きい土地改良施設(農業水利施設、農道、干拓堤防)

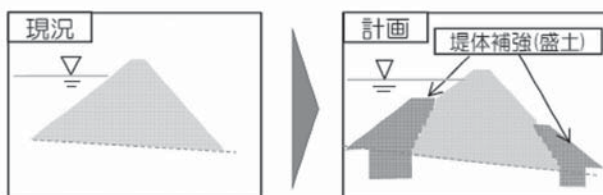
耐震性点検調査

- ・ボーリング等による土質調査等
- ・安定計算等による耐震性の検討
- 計画策定
- ・耐震化対策実施地区の計画策定

○耐震点検・ハザードマップ作成(ため池の事例)



○耐震整備のイメージ(ため池の事例)



農業農村整備事業の効果

モミガラ補助暗渠の実施状況、効果について

1. はじめに

県では秋田県農林漁業振興臨時対策基金により、モミガラ補助暗渠による排水強化対策事業「戦略作物生産拡大緊急基盤整備事業」を平成23年度新規事業として創設、実施している。

2. これまでの実績

平成23年度実績及び24年度実績見込みは以下のとおりとなっている。

- ・平成23年度実績 A=1,271ha
- ・平成24年度実績見込みは A=1,249ha

〔事業別実施面積〕

単位：ha

区 分	単独施工型	水田排水強化型	経営体基盤整備	計	備 考
平成23年度	550.7	214.9	505.1	1,270.7	
平成24年度	279.8	352.2	616.8	1,248.8	

3. 取組の成果及び課題

1) 取組の成果

- ・収量、品質の向上

【平成23年度施工箇所】

- 夏の雨不足や集中豪雨などが影響し収量で、枝豆は約1.1から1.5倍、大豆は約1.0から1.8倍。
- 排水効果の向上で懸念された小雨年でも収量確保が実証されるなど、天候不順や異常気象における収量、品質の安定度が高い。

○収量

単位：kg/10a

作物名	管 内	収 穫 量		比 較	備 考
		施工ほ場	対照ほ場等		
枝 豆	鹿 角	510	350	約1.5倍	鹿角市
	仙 北	578	548	約1.1倍	大仙市
大 豆	由 利	185	117	約1.6倍	にかほ市
	仙 北	192	108	約1.8倍	美郷町
きゅうり	北秋田	11,000	8,000	約1.4倍	北秋田市
カボチャ	秋 田	1,220	870	約1.4倍	井川町

○品質

単位：%

区 分	項 目	施工ほ場	対照ほ場	場 所
枝豆(湯上がり娘)	2粒以上	90.1%	86.2%	鹿角市
	クズ等	3.2%	6.9%	
大豆(りゅうほう)	1、2等級	95.0%	60.0%	三種町

- ・枝豆は、2粒以上の割合が4ポイント高く、クズ等の割合が約4ポイント低い。
- ・大豆は、上位等級(1、2等)がほとんどで、品質に大きな差が見られた。

【平成24年度施工箇所】

- 平成24年度は夏の高温小雨や秋の長雨などが影響し収量で、枝豆は約1.1から1.2倍、大豆は約0.7から1.3倍となっている。

2) 課題(平成24年度)

・ 県単モミガラ補助暗渠単独施工型

- (1) 農業体質強化基盤整備促進事業(定額：暗渠排水)実施のため、農家のモミガラ調達が困難となっている。(H24は定額含め、暗渠排水工施工面積は例年の約10倍)
- (2) 転作作物を新規需要米へ変更。
- (3) 大豆作付のため収穫時期が遅く、秋施工の日程確保が困難。



(左) 補助暗渠有り

(右) 補助暗渠無し

モミガラ補助暗渠の排水効果により、水はけ良好！(にかほ市芹田地区内)

4. 平成25年度の予定

単位：ha

事業名	要望面積	計画面積	備考
県単独施工型	237	720	要望面積はH25 要望調査により
水田排水総合強化型	105	500	H24 予備費①、H24 補正、H25 当初要望より
経営体育成基盤整備	583	780	要望面積はH25 要望調査より
計	925	2,000	

(平成24年12月末時点)

※平成24年度補正予算により新規創設された、農水省生産局所管「大豆・麦等生産体制緊急整備事業」において、モミガラ補助暗渠の施工取組が助成対象(国10/10助成)となっているため、上記県単独施工型H25 予定箇所については、新規事業の要件を満たす場合、同事業での実施取組を検討していただくよう連絡している。

[秋田県農林水産部農地整備課]

第3回秋田県土地改良区統合整備検討委員会が開催される

統合整備の推進により、土地改良区の一層の運営基盤の強化を図ることを目的に、統合整備に関する基本方針等を検討する、第3回秋田県土地改良区統合整備検討委員会が、3月7日(木)に秋田地方総合庁舎で開催された。

会議では、「地区別意見交換会」の実施状況及び平成25年度土地改良区統合整備基本計画策定スケジュールについて報告が行われ、それぞれの報告について、委員から意見やアドバイスがあった。

地区別意見交換会での協議から見えた解決すべき課題

- 二重賦課の問題
- 賦課金の未収の問題
- 積極的に動いている地区を先行させた場合の影響
- 組合員、職員の意見をどのように反映させるか
- これらについて、対応策・方針を整理して示していくべきである。
- 過去のわだかまり・しこりの解消
- 水系を越える合併のメリット
- 行政の関わり

水土里ネット秋田版会計システムについて

去る平成23年10月27日、秋田県庁第二庁舎において「土地改良区会計の改革等に伴う説明会」が開催されました。非常に多くの方々が参加され、システムの利用について検討している方も多いかと思えます。

説明会において示されたポイントは、以下の2点となります。

■新たな会計細則例に基づいた勘定科目、様式の導入

▶ 勘定科目名の変更(より詳細な勘定科目へのシフト)

需用費 から 消耗品費、燃料費、給水光熱費、印刷費... へ
役務費 から 通信運搬費、手数料... へ

▶ 帳票様式例の変更・追加

収入・支出命令、金融口座振込、収支予算書・決算書、収入・支出整理簿...

■複式簿記会計の導入を見据えた対応

▶ 一度の取引で二度の仕訳処理(1取引2仕訳)

▶ 減価償却計算(資産の現在価値を会計上で把握する)

▶ 貸借対照表、正味財産増減計算書、仕訳帳、総勘定元帳...etcの作成

今後求められる新たな基準に基づいた会計処理、および複式簿記会計の導入について積極的かつ効率的に取り組める環境を構築するためには、シンプルで扱いやすい会計システムの導入が必須であると考えています。そこで、「水土里ネット秋田版会計システム」の構築を進めました。

開発にあたり重視されたことは、以下の2点です。

①現場で行われている会計実務をしっかりと踏まえた上で、より効率的な作業環境が提供できること

②他のどの会計システムよりもシンプルなものであること

実際の現場で行われている事務処理をしっかりと把握するため、県内9土地改良区の会計担当職員・秋田県指導担当・税理士等で構成された「会計システム検討委員会」を軸に、19回の訪問ヒアリングおよび2回の全体会合を実施しました。この中で数多くの現場の意見を集約し、本システムを完成することができました。

〔水土里ネット秋田版 土地改良区会計システムの主要な機能〕

インストール不要かつバックアップ不要な会計システム

ウェブブラウザ上でシステムを開発。ユーザーはIDとPasswordを用いて、会計システムにログインする。仕訳データはすべて本会設置のサーバーに保管され、バックアップ処理はそこで行われる。

また、システムがウェブ上にあるためバージョンアップへの対応が迅速。

単式／複式どちらにも対応した会計システム

単式会計の仕訳時、複式簿記に必要な2次仕訳をシステム内部で自動処理する。2次仕訳の集計を行うことで正味財産増減計算書や貸借対照表の作成が可能となるため、ほぼ単式会計を処理する感覚で複式会計への移行が可能。

消費税計算機能を持った会計システム

税区分をシステムに事前登録することで、消費税計算が自動で行われる。(本則・簡易課税方式の双方に対応。方式別税額の比較検討も可能。)

減価償却計算機能を持った会計システム

- ・減価償却計算機能を装備した固定資産管理台帳を備えている。
- ・台帳に備品の基本情報を入力することで、減価償却費が自動計算される。
- ・複式会計における減価償却計算に伴う事務負担を解消。

なお、平成25年度は11の水士里ネットにご利用頂くこととなっており、そこで最終的な運用試験が行われるほか、本システムに触れられる機会を説明会という形で設ける予定です。

是非、「効率的な作業環境」と「シンプルな操作性」に触れて頂き、多くの負担を伴わずに新基準会計、複式会計の導入を実現して頂きたいと思っております。

合併認可書交付式

馬場目川水系土地改良区

平成25年1月31日、五城目町にある3土地改良区が合併した「馬場目川水系土地改良区」の合併認可書の交付が土地改良区事務所で行われ、設立委員会の加藤孝一郎委員長（旧南秋田郡真崎堰土地改良区理事長）に、菊子正稔秋田地域振興局農林部長から合併認可書が手渡された。

水系並びに町一本化での合併を目指し、町行政との連携強化及び組織運営の効率化を図るとともに、重畳関係を解消することを目的に、平成19年9月25日から協議が行われ、平成24年6月19日に合併予備契約調印式を行った。その後、設立委員会が合併認可申請し、この日、「馬場目川水系土地改良区」が誕生した。

新土地改良区は、関係面積が906haで、組合員数847名となる。



○新土地改良区 (H25.1.31～)

- ・名称 **馬場目川水系土地改良区**
- ・代表者 **理事長 加藤 孝一郎**
- ・住所 南秋田郡五城目町大川下樋口
字沼ノ上12-1
- ・電話 018-875-3037
- ・FAX 018-875-3991

○合併により解散した土地改良区 (H25.1.31付)

- ・南秋田郡真崎堰土地改良区
- ・南秋田郡大川土地改良区
- ・南秋田郡五城目土地改良区

第54回全国土地改良功労者表彰

● 本県から3団体4個人の表彰が決定

全国土地改良功労者表彰は、永年にわたり土地改良事業に尽力され、功績がみとめられた土地改良関係者(優良団体・個人)が表彰されるもので、本県関係として、今回は、水土里ネット会長表彰・金章の秋田県仙北南部土地改良区を始め、3団体4個人の表彰が決定した。

表彰式は、3月26日、都市センターホテル(東京都)での全国水土里ネット第55回通常総会終了後、「シェーンバッハ砂防(砂防会館別館)」を会場に行われる。

なお、今年度の21世紀土地改良区創造運動表彰の「さなえ賞」に決定している、八郎潟西部干拓地区土地改良区の表彰も併せて行われる。

〔優良団体表彰：水土里ネット会長表彰〕

◇金章 秋田県仙北南部土地改良区

◇銀章 昭和土地改良区・秋田県能代地区土地改良区

〔個人表彰：水土里ネット会長表彰〕

◇加藤正孝(大仙市協和小種土地改良区理事長)◇小川善信(能代南土地改良区理事長)

◇安井教一(秋田県能代地区土地改良区事務局長)◇鈴木英弘(秋田市孫左衛門堰土地改良区事務局長)

〔21世紀土地改良区創造運動・さなえ賞〕

◇八郎潟西部干拓地区土地改良区

全国で唯一の農林水産大臣表彰に、 「小種地区」(大仙市協和小種土地改良区)の受賞が決定

平成24年度農業農村整備優良地区コンクール表彰 農業生産基盤整備部門

農業農村整備事業を契機として、効率的かつ安定的な農業経営を行い、生産性や収益性の高い農業を積極的に展開している地区を表彰する、平成24年度農業農村整備優良地区コンクール表彰〔農業生産基盤整備部門〕において、「小種地区」(大仙市協和小種土地改良区)が最上位のランクである農林水産大臣賞を、全国で唯一、受賞することが決定した。

今回の表彰は、経営体育成基盤整備事業の施行面積262.8ヘクタールのうち94%を、事業を契機として設立した「農事組合法人 たねっこ」に面的集積の上、収益性の高い農業の実現や、通年雇用の創出等による農家所得の大きな向上などによって、土地利用型農業の確立や地域の活性化が図られていることが、審査員から高い評価を得たものである。

表彰式は、第54回全国土地改良功労者表彰と同様、3月26日に「シェーンバッハ砂防(砂防会館別館)」で行われる。



秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会

■「農業水利施設の長寿命化に向けた技術研修会」県内3会場で開催

去る2月20～25日にかけて県内3会場で、「農業水利施設の長寿命化に向けた研修会」が県地域協議会の主催で開催され、延べ820名の関係者が参加した。

同対策は、集落を支える体制の強化や仕組みの簡素化を図り、地域の農業者を中心に地域住民等の参加を得て行う「共同活動」と、老朽化が進む農地周りの水路等、施設の長寿命化の取り組みを支援する「向上活動」の2対策に拡充し、平成24年度から二期目の施策として継続的に実施されている。県内では今年度、共同活動＝648組織、向上活動＝109組織が取り組んでいる。

研修会は、基礎活動の必須要件である機能診断や水路補修についての技術研修の一環とし、今後、各活動組織が自主的に施設の簡易補修等の活動を行うための参考にしてもらおうと開催された。

講師には、東北農政局土地改良技術事務所の大上専門技術指導官を始め、同事務所の松浦係長、東北農政局農地整備課の佐藤係長並びに高橋係長、東北農政局秋田地域センターの羽澤管理官を招き、実践的な補修技術の講義や事例等の紹介があり、参加者は熱心に聞き入っていた。また、地域協議会の県農山村振興課長谷川主任は、実績報告書の作成における留意事項について説明された。



■秋田県第三者委員会を開催

3月4日、ルポールみずほ(秋田市)で今年度の「秋田県第三者委員会」が開催され、委員及び事務局など関係者16名が出席した。

同委員会は、今年度より、県内の農山村地域が有する多面的機能の良好な発揮や農地等の保全・利活用に係る地域住民の共同活動など、農山村地域の活性化及び振興対策の推進に関する事項を検討・提言する委員会として、「秋田県農山村ふるさと保全委員会」に名称を変えて開催された。

委員会では、母体の事業となる「農地・水保全管理支払交付金」や、「中山間ふるさと・水と土保全対策推進事業」に関しての概要説明や、それぞれの立場での意見や提言などが行われた。

なお、同委員会の検討委員については次のとおり。

◇長濱健一郎(秋田県立大学生物資源科学部教授)、椛本歩美(国際教養大学地域環境研究センター教員)、加藤加一(余目地域活性化対策いきいき会議協議会会長)、佐藤郁子(秋田ふき粉会代表)、石井昭浩(大森建設(株)取締役執行役員・技術営業部長)、吉田里紗(NPO法人あきたNPOコアセンター理事)

■平成24年度第2回通常総会を開催

3月19日、ふきみ会館(秋田市)で「平成24年度秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会第2回通常総会」が、会員23団体(会員数28団体)の出席で開催された。

総会は、黒子高夫会長(水土里ネット秋田専務理事)の挨拶に引き続き、提出案件について協議が行われた。議事では、平成24年度事業計画の変更、平成24年度収支補正予算、平成25年度事業計画及び収支予算案、業務方法書(向上活動)の変更のほか、共同活動支援交付金に関して1回目の交付を70%上限から80%上限とすることが議決事項として提出され、審議の結果、いずれも事務局提案通りに承認された。

なお、二期対策がスタートした今年度の取組状況(H25.2末)については、共同活動支援交付金(活動組織648地区、交付金額1,746,384千円)、向上活動支援交付金(活動組織109地区、交付金額92,000千円)となっている。

【担当】 秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会事務局

水土里ネット秋田総務企画部内 TEL.018-888-2748 FAX.018-888-2834

特集

農業水利施設内の「ゴミ」問題

シリーズ⑫

1. 水土里ネット稲川(雄勝管内)の取り組み

■ゴミ捨て防止標語コンクール

今回で9回目を迎えたゴミ捨て防止標語コンクールには、管内小学生352点、中学生312点の664点の応募があり、10月24日に審査委員会を開催し、小学生の部11点、中学生の部5点が、それぞれ優秀作品として選考されております。

その中から、最優秀賞(土地連会長賞)をご紹介します。



小学校の部(最優秀賞) 三梨小5年 佐藤 明衣 さん
ゴミなしで 水土里かがやく 稲の川



中学校の部(最優秀賞) 稲川中3年 沓沢 莉奈 さん
考えて! ほんとにそこに 捨てていい?

2. 水土里ネット広報誌情報

■各水土里ネットでは、「ゴミゼロ」運動について広報誌で情報発信しております。今回は、以下の水土里ネットをご紹介します。

【水土里ネット山城水系】…平鹿管内

水土里ネットでは、ゴミゼロ運動を実施中です。

水路・道路に「ゴミ」を捨てないでください。「ゴミ」の不法投棄は法律により罰せられます。「ゴミの不法投棄」は犯罪であり、法律により5年以下の懲役、若しくは、1千万円以下の罰金に処せられることになります。

『ゴミ』の不法投棄は絶対に止めましょう。

【水土里ネット山田五ヶ村】…雄勝管内

『ゴミゼロ対策』

用排水路のゴミ等は、通水障害や隘水被害、揚水機の故障の原因となります。撤去・処分費用は全て組合員の負担になりますので、絶対に捨てないでください。また、草刈は水路に流れない工夫をお願いします。

綺麗な水で農産物を生産するため、一人ひとりの 共通意識による『ゴミゼロ』運動を展開しましょう!!!

3. テレビコマーシャル

■水土里ネット秋田では、広く県民に情報を発信するため、AKT秋田テレビでコマーシャル(スポット)を放送いたします。

○放送期間等：平成25年3月25日(月)～3月30日(土)

- | | | | | | |
|------|----------|--------|------|----------|-------|
| ①25日 | スーパーニュース | 16時50分 | ④28日 | ノンストップ! | 9時55分 |
| ②26日 | カスペ! | 19時00分 | ⑤29日 | ノンストップ! | 9時55分 |
| ③27日 | スーパーニュース | 16時50分 | ⑥30日 | めざましどようび | 6時10分 |

○今後の予定：平成25年4月中旬頃放送

土地改良区の運営合理化のために、 農業基盤整備資金がご利用いただけます！

土地改良区の事務の運営合理化や土地改良施設の維持管理のために行う事業であって、「土地改良施設の整備事業及び維持管理事業」に該当するものは、**補助**(国庫補助を伴う土地改良事業)・**非補助**(国庫補助を伴わない事業)を問わず、**農業基盤整備資金**がご利用いただけます。

水管理集中化による維持管理費の削減

頭首工、揚水機場、分水工の水位・流量等の情報を収集し、的確な操作指示を行う集中管理施設の設置。

かん水手動バルブを自動バルブに入替え、集中管理する施設の設置。

業務OA化による経費節減

OAシステム化の整備(賦課金徴収システム、償還金システム、積立金システム等の開発、ハードウェアの整備など)。

※ソフトウェアの導入のみは不可

集中計算施設の設置による経費節減

賦課金額を用水使用量に比例させる場合の賦課金額自動計算のための集中計算機の設置と水栓バルブに付設するメーターの設置。

施設・用水の多目的利用

農業用水を利用した小水力発電施設(自家発電による電力料の削減)の設置による受益者負担の軽減。

融資条件

○償還期限：25年以内(うち据置期間10年以内)

○融資限度額：負担金の全額 ※借入可能な最低限度額50万円

○金利：借入時の金利は金融情勢により変動します。直近の金利については、日本政策金融公庫秋田支店(TEL 018-833-8247)にお尋ね下さい。

土地改良区が使用する農業用A重油 及び軽油に関する税金の免除について

土地改良区が、土地改良施設の維持管理のため、自らが所有する揚水機、バックホウ、草刈機などに、農業用A重油及び軽油を使用する場合、次の石油諸税が免除される制度があります。

農業用A重油については、店頭での販売価格にすでに反映されており、土地改良施設の維持管理に使用するものであることを確認できれば、通常価格より低額で購入することができます。

軽油については、事前に県税事務所から免税証の交付を受け、購入する際に提示すれば、通常価格より低額で購入することができます。

【免除される税目】

区分	税目	税率	適用期限
農業用A重油	石油石炭税(国税)	2.04円/L	平成26年3月
	石油石炭税に上乗せされる地球温暖化対策税(国税)	0.25円/L	平成26年3月
軽油	軽油引取税(県税)	32.1円/L	平成27年3月
	石油石炭税に上乗せされる地球温暖化対策税(国税)	0.25円/L	平成26年3月

※免税軽油の対象機械及び申請手続き等については、最寄りの総合県税事務所にお尋ね下さい。

● 「水土里情報システム」の活用について ●

■ 「人・農地プラン」の活用事例(横手市)

- 横手市産業経済部農業政策課担い手育成担当
- 「人・農地プラン」事業の助成申請に向けた資料作成に活用
- 横手市 認定農業者 約1,300人
- 作業概要
 - ・ 認定農業者の農地を色分け→図面作成(横手市全域)：水土里情報システム
 - ・ 地区毎に説明会を開催(作成図面を活用し事業概要の説明)
 - ・ 図面閲覧 → 事業参加への同意徴集
 - ・ 事業取組への計画作成
 - ・ 農業委員会等への事業申請

横手市産業経済部農業政策課では、本会の「水土里情報システム」を活用し、横手市全域の「人・農地プラン」申請に向けた図化作業を進めてきました。

本会のパソコン端末を利用して、農地の集積を進めるための原図案を作成する作業では、本会職員が全面的に協力させていただき、水土里情報システムを利用することで、所有者データの抽出や農地集積の計画図作成などの作業がスムーズに行われました。

この作業は、本会で運営している「水土里情報システム」の新たな活用方法として実践されたもので、今後も、各市町村や土地改良区などの様々な要望に応じた利活用を検討させていただくこととしております。



水土里情報システムを活用した図面作成の指導・協力(水土里ネット秋田：図化機室)

【担当・問い合わせ先】 水土里情報センター室 TEL.018-888-2737 FAX.018-888-2835

会員だより

新理事長就任のお知らせ

次の方が新たに理事長に就任されました。
○仙北郡六郷町土地改良区(H24.12.31)
理事長 佐々木 正

職務代理者のお知らせ

次の方が、土地改良区の理事長職務代理者となりました。
○大森土地改良区(H25.1.15)
理事長職務代理者 上田 隆

連 合 会 日 誌

2月7日	全国土地改良事業団体連合会事務責任者研修会	東京都
2月8日	秋田県農地集団化推進協議会平成24年度第2回理事会・研修会	秋田市
2月13日	平成24年度雄物・米代川地域広域基盤確立推進協議会総会	秋田市
2月14日	平成24年度災害復旧技術向上のための講習	秋田市「県庁第2庁舎」
2月21日	本会第4回理事会・第2回役員会	本会「第1会議室」
2月27日	平成24年度交換分合推進対策研修会	秋田市
3月1日	秋田県土地改良区統合整備推進協議会	本会「第1会議室」
3月1日	秋田県21世紀土地改良区創造運動推進本部員会議	本会「第1会議室」
3月8日	全国土地改良事業団体連合会理事会	東京都
3月8日	山本支部全体会(第9回)	能代市
3月8日	平成25年度土地連OB会定例会	秋田市
3月8日	第42回土地連秋田支部通常総会	秋田市
3月11日	平成24年度基金管理委員会	本会「第1会議室」
3月12日	平成24年度秋田県管理円滑化事業推進委員会	本会「第1会議室」
3月12日	平成24年度秋田県換地等強化事業推進委員会	本会「第1会議室」
3月19日	秋田県耕作放棄地対策協議会通常総会	本会「第1会議室」

「中山間ふるさと・水と土フォーラム」

～農山村の魅力を再確認～

— 土地改良施設巡り「わくわく探訪」参加の小学生が感想文を発表 —



▲主催者挨拶・保坂農山村振興課長

オープニングでは、国指定重要無形民俗文化財に指定されている「本海獅子舞番楽」が、由利本荘市鳥海町の下直根講中の皆さんによって披露された。特に、小学生の兄弟による「鳥舞」は、優雅で力強い舞と幻想的な雰囲気に参加者も魅了されていた。

また、秋田市河辺出身のAKT秋田テレビ石塚真人さんが「みんなに伝えたい～秋田と農村の魅力～」と題して基調講演を行った。県内各地の棚田や上小阿仁村の「大地のアート～限界集落の挑戦～」等を紹介しながら、文化としての棚田をどう守っていくべきか話された。さらに、減反がきっかけで農業に付加価値をつけるために立ち上げた「浅舞婦人漬物研究会」や、全



▲石塚真人さんによる基調講演

国で最も遅い9月中旬に市場出荷している鹿角市の「北限の桃」など儲かる農業を紹介。誇りを持てる農業、若者が参入できる農業についても述べ、「身近な自然や身の回りを見つめ直し、農山村の持つ無限の地域資源としての魅力を再発見して地域に還元していくことが大切である」と提言した。

続いて、小学生による体験活動として、昨年7月に開催された「水土里の郷・仙北平野 わくわく探訪」に参加した、阿部広太君(秋田市立桜小5年)と佐々木彩乃さん(大仙市立神岡小6年)が感想文を発表。阿部君は「水の大切さと、きれいな水でおいしいお米ができることをみんなに教えたい」、佐々木さんは「人間が生きるために欠かせない水をこれからも大事に使いたい」と述べた。次に、大仙市大沢郷で農業体験者の受け入れや循環型農業に取り組んでいる「秋田百笑村」の佐々木義実さんや、雄物川や農業用ため池などのクリーンアップ活動に取り組むNPO法人秋田パドラーズの船山仁さんが、それぞれの活動を紹介した。

2月23日(土)、秋田市の「エリアなかいち」にぎわい交流館で、平成24年度『中山間ふるさと・水と土フォーラム』(主催：秋田県、共催：水土里ネット秋田)が開催され、約160名が参加し農業や農山村地域の魅力を再確認した。このフォーラムは、中山間地域などが有する自然や景観、伝統文化など県内各地の魅力に関心を持ってもらい、農業・農山村を守り継ぐことや、農地や農業水利施設などの保全、利活用にかかわる住民運動への参加を促進することを目標に開催された。



▲「子供鳥舞」の小学生へのインタビュー

続いて、小学生による体験活動として、昨年7月に開催された「水土里の郷・仙北平野 わくわく探訪」に参加した、阿部広太君(秋田市立桜小5年)と佐々木彩乃さん(大仙市立神岡小6年)が感想文を発表。阿部君は「水の大切さと、きれいな水でおいしいお米ができることをみんなに教えたい」、佐々木さんは「人間が生きるために欠かせない水をこれからも大事に使いたい」と述べた。次に、大仙市大沢郷で農業体験者の受け入れや循環型農業に取り組んでいる「秋田百笑村」の佐々木義実さんや、雄物川や農業用ため池などのクリーンアップ活動に取り組むNPO法人秋田パドラーズの船山仁さんが、それぞれの活動を紹介した。

続いて、小学生による体験活動として、昨年7月に開催された「水土里の郷・仙北平野 わくわく探訪」に参加した、阿部広太君(秋田市立桜小5年)と佐々木彩乃さん(大仙市立神岡小6年)が感想文を発表。阿部君は「水の大切さと、きれいな水でおいしいお米ができることをみんなに教えたい」、佐々木さんは「人間が生きるために欠かせない水をこれからも大事に使いたい」と述べた。次に、大仙市大沢郷で農業体験者の受け入れや循環型農業に取り組んでいる「秋田百笑村」の佐々木義実さんや、雄物川や農業用ため池などのクリーンアップ活動に取り組むNPO法人秋田パドラーズの船山仁さんが、それぞれの活動を紹介した。



▲わくわく探訪・感想文発表の小学生

ふるさと水と土指導員からの報告

農地や農業用水を保全活用するための地域住民活動の活性化に関する推進指導、助言を行う「ふるさと水と土指導員」の育成・能力向上を目的に、2月12～13日、千葉県佐倉市で『第19回ふるさと水と土基金全国研修会』（主催：ふるさと保全ネットワーク【全国水土里ネット】・ふるさと水と土保全対策本部【農林水産省農村振興局中山間地域振興課】）が開催された。全国各地から関係者38名の参加があり、参加者の一人として地域活動におけるワークショップの手法や、地域資源の発見活動等を研修してきました。

佐倉市の印旛沼周辺を会場とする「地域活動実践コース」では、魅力資源発見ウォーキングや地域活動で広く活用されているワークショップの手法を実践しました。中でも、「NPO法人印旛野菜いかだの会」が平成12年から取り組んでいる環境に優しい「植栽いかだ」による植物（空芯菜・ハーブ・花菖蒲等）の育生は、窒素・リンを吸収して、生態系を破壊するアオコの異常発生を抑制し、魚類の育む水環境を再生させていることに興味を持ちました。さらに、毎年流域の小・中学生を対象に体験型自然環境学習を実施し、意識啓発活動と水環境の大切さを伝えていることを学びました。



また、3月1～2日には横手市と美郷町で、県農山村振興課主催の「平成24年度中山間ふるさと水と土『県内研修会』」が県内のふるさと水と土指導員等を対象に行われ、先の「全国研修会」の研修報告をさせていただきました。

県内研修会は、農地や土地改良施設など地域資源の保全・利活用と、中山間地域の活性化に向けた人材育成が狙いで、今回は県内各地の取組を紹介した事例発表、直売所や農家民宿などの現地視察が行われました。両研修会に参加して得たものを自身の地域へ持ち帰り、今後の活動へ役立てることで、地域活動の広がりや関係者とのネットワーク化にも活かして行けるものと感じました。



現在は、水土里ネット秋田で「土地改良施設巡り」、「あきた農業体験施設」等に関する業務を補助させて頂いているほか、水土里ネット秋田の支援を受けて「秋田県地域伝統芸能大会」の活動をしています。

こうした広報活動を通じて、都市と農村の世代を超えた交流が生まれ、地域コミュニティの絆や地域農業の担い手づくりにも繋がってきていることなど、様々な効果が見られることがわかってきました。今後も、地域に眠っている『宝』の活用を生かした「ふるさと水と土指導員」としての活動を行っていきたいと考えております。

秋田県ふるさと水と土指導員 高橋康信(水土里ネット秋田広報・渉外班)

特集

地域からの
情報発信

ゆきとぴあ七曲 ～花嫁道中～

水上市レポーター 矢野 二郎
(羽後町土地改良区事務局長)

羽後町の田代地区は、出羽丘陵に囲まれた山間地で、冬は、2mを越す豪雪となり、12月から3月までの間は、まるで墨絵のような風景となります。

そんな中、昭和61年から「雪国を楽園に」を合言葉に、かつては地区の一番の難所であった七曲峠を越えて馬そりに揺られながらの花嫁道中や、昔ながらの結婚式が再現されるイベントが「ゆきとぴあ七曲」です。

その年に結婚予定のカップルの中から公募して選ばれた、和服姿にマントを羽織った花嫁・花婿を乗せた馬そりの行列が、西馬音内の役場前から七曲峠を越え、田代の大地主だった旧長谷山邸までの12キロの行程を、5時間かけて歩きます。



行程には、このイベントに合わせた雪祭り広場もあり、花嫁道中は、それぞれに立ち寄りながら、多くの方々から祝福を受けます。峠の両側に出来た雪壁をくり抜いて造った7,000本の雪灯籠が、通りすぎる馬そり行列を幻想的に彩ります。まるで人生の七曲峠に行く足元を照らす様に……。

雪灯籠に彩られた七曲峠(通称キャンドルロード)を歩くキャンドルウォーキングは、今年で28回目を迎え、小・中学生も参加して、このイベントを支えます。キャンドルロードの幻想的な光景は、峠の約4キロに渡って続いており、一般車両の通行も可能ですので、車で通る際はスモールライトにするといいでしょう。(きっと感動すると思います)

終点の旧長谷山邸前では、多くの人々が駆けつけ二人を祝福します。邸宅の3階で神事のあと、契の杯を交わし、冬花火でクライマックスとなります。



人と雪が織り成す、羽後町のイベントの当日スタッフは、中学生から70代まで200名を超え、すべてボランティアで行われております。(事務局: 役場企画商工課)

雪が消えると峠の桜並木が満開となります。春はもうすぐ、馬そりに乗って峠を越えた二人に幸せあれ……。



「ふるさと田んぼと水」子ども絵画展2012

全国水土里ネットと都道府県水土里ネット主催による、「ふるさと田んぼと水」子ども絵画展2012は、全国から8,745点の応募があり、厳正な審査の結果、入賞23作品、入選92作品、地方団体賞60作品が決定されました。



本会を通じて応募された作品の中から、県内では初めてとなる入選1作品が選ばれました。おめでとうございます。

入選

「むかしのこめだし」

横手市立増田小学校1年
鈴木悠斗さん

インフォメーション

水土里ネット秋田・ホームページのURLが新しくなります。

水土里ネット秋田のホームページのURLが、4月から変更になります。内容が充実し、フェイスブックによる書込みも可能となっています。

「お気に入り」または「ブックマーク」登録されている方は変更をお願いします。

4月からのURL → <http://www.akita-midori.net/>

野山の花 ウメ (梅)



早春、葉より先に白・淡紅・紅などの香りの良い花を咲かせるバラ科の落葉高木、またはその果実。300種以上の品種があり、花芽はモモと異なり、一節に1個、5枚の花弁で3cmほどの花を咲かせる。

果実は梅干し、梅酒などの食用の他、漢方薬として健胃、止血、強心作用があるといわれる。『花言葉：厳しい美しさ、あでやかさ』

編集後記

◆ 早春賦という歌の中に「春といっても名ばかりで、風はまだ寒い」という歌詞があります。春まだ浅いこの時期にぴったり。今年は、平成18年以上の記録的な豪雪となり、冬期交通障害、除雪や屋根の雪下ろし事故が多発しました。それでも「はる」という響きは嬉しく、長い冬を乗り越えてきたという感慨がわき起こります。平成23年3月11日に発生した東日本大震災から2年が過ぎましたが、毎年、厳しい冬がくれば、春はすぐその隣。人生の厳しい冬もいつまでも続くわけではなく、希望に満ちた未来がすぐ先に控えている。「防災」「備災」という意識を常にかみしめて「心の復興」を支援していきたいと願っています。

(総務企画部広報・渉外班)

※本印刷用紙は、大昭和板紙秋田工場で生産された「地産池消製品」を使用しております。